

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	大学における地域貢献と活動拠点のあり方研究				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費 1100 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究者
	文化政策	国際文化	教授	下澤 嶽	他 4 名
発表の方法	1 紀要 名称: 特にありません。(ただし次号に予定しています)		号数	第 13 号 ( 頁～ 頁) ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名: とくにありません。		発表日	平成 年 月 日	
	3 その他 2014 年 2 月 12 日に、静岡文化芸術大学内において、公開研究会を開催し、招聘スピーカーとともに研究成果を討論し、それらを一般公開した。また、3 月には報告書を作成し、関係者に配布した。		発表日	平成 26 年 2 月 日	

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

以下の研究を実施することで、静岡文化芸術大学の地域貢献活動の将来ビジョンに資するとともに、研究に学生の参加を促すことで学生参加型の地域貢献研究を進める。

- (1) 既存の大学の地域貢献活動と活動拠点の網羅的な研究
- (2) 浜松地域での静岡文化芸術大学独自の地域貢献メニューの開発の在り方の研究

(研究の実施方法等)

- (1) 既存の大学の地域貢献と活動拠点：既存の文献調査にあわせて、4, 5 か所のモデル的な大学を訪問インタビューする。(9月～12月)
- (2) 浜松地域における地域貢献メニューは、地元の活動者とともに課題を洗い出すワークショップ、ヒヤリングなどを実施する。(12月から1月)
- (3) 上記の成果をもっても公開研究会を実施し、調査結果の最終的な統一見解を導きだす。(2月)
- (4) 研究には学生を研究要員として参加させ、学生の当事者意識を涵養することにより、学生参加型の地域貢献研究を進める。

(得られた成果等)

- ・ これまでの大学における地域貢献の大きな流れとトレンドを整理し、大学の地域貢献の将来ビジョンをある程度明確にすることができた。
- ・ 静岡文化芸術大学に合った地域貢献のあり方について、多様な指摘と議論を、外部講師、教員同士ですることができた。特に、「文化政策」「デザイン」のベストミックスが重要であるとの指摘が目立った。
- ・ 学生の調査への参加、公開研究会への参加はやや人数が少なく、研究方法における反省点となった。
- ・